

基本計画書

基本計画書										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		専攻の設置								
フリガナ設置者		ガコリョウジン メイジダク 学校法人 明治大学								
フリガナ大学の名称		メイジダクガク 明治大学大学院 (Meiji University Graduate School)								
大学本部の位置		東京都千代田区神田駿河台1-1								
大学院の目的		学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性の求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を養い、文化の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的		「メディア環境の中の文芸」という立場を設定し、メディアとは何かという問題意識を重く踏まえた上で、「文芸というメディア」「メディアとしての文芸」の視座から文芸研究・メディア研究に取り組む。文芸への深い知識と教養を兼ね備えながら、言語テキストとそれが置かれたメディア環境の相互の関連を視野に収める専門的知識人の育成を目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎学部】 文学部文学科	
	文学研究科 [Graduate school of Arts and Letters] 文芸メディア専攻 [Literary Arts and Media] 計	年	人	年次人	人	修士(文学)	年月 第年次 平成23年4月 第1年次	【駿河台校舎】 東京都千代田区 神田駿河台1-1		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		文学部史学地理学科〔定員増〕(15)(平成22年6月届出予定) 文学部心理社会学科〔定員増〕(25)(平成22年6月届出予定) 政治経済学部経済学科〔定員減〕(△40)(平成22年6月届出予定) 先端数理科学研究科現象数理学専攻(平成22年6月届出予定)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	文学研究科文芸メディア専攻	講義	演習	実験・実習	計	32単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
組織	新設分	文学研究科 文芸メディア専攻(修士課程)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
		計	4 (4)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
概要	既設	大学院共通	6 (6)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	
		法学研究科 公法学専攻(博士前期課程)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	2 (2)	
		公法学専攻(博士後期課程)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
		民事法学専攻(博士前期課程)	17 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
		民事法学専攻(博士後期課程)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	
		商学研究科 商学専攻(博士前期課程)	47 (47)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	47 (47)	0 (0)	5 (5)	
		商学専攻(博士後期課程)	35 (35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	2 (2)	
		政治経済学研究科政治学専攻(博士前期課程)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	7 (7)	
		政治学専攻(博士後期課程)	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	1 (1)	
		経済学専攻(博士前期課程)	29 (29)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	2 (2)	
		経済学専攻(博士後期課程)	28 (28)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	
		経営学研究科 経営学専攻(博士前期課程)	30 (30)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	12 (12)	
		経営学専攻(博士後期課程)	28 (28)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	12 (12)	
		文学研究科 日本文学専攻(博士前期課程)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	
日本文学専攻(博士後期課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)			
英文学専攻(博士前期課程)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (1)			
英文学専攻(博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)			

教 員	既	文学研究科 仏文学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)		
		仏文学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)		
		独文学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)		
		独文学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)		
		演劇学専攻 (博士前期課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	2 (2)		
		演劇学専攻 (博士後期課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)		
		史学専攻 (博士前期課程)	19 (19)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	7 (7)		
		史学専攻 (博士後期課程)	19 (19)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)		
		地理学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)		
		地理学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)		
		臨床人間学専攻 (博士前期課程)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	18 (18)		
		臨床人間学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)		
		情報コミュニケーション研究科 情報コミュニケーション学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	17 (17)		
		情報コミュニケーション学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)		
		教養学*イン研究科 教養学*イン専攻 (博士前期課程)	27 (27)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	2 (2)		
		教養学*イン専攻 (博士後期課程)	22 (22)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)		
		組	設	理工学研究科 電気工学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	6 (6)
				電気工学専攻 (博士後期課程)	18 (18)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	0 (0)
				機械工学専攻 (博士前期課程)	18 (18)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	2 (2)
				機械工学専攻 (博士後期課程)	18 (18)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
建築学専攻 (博士前期課程)	9 (9)			6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	15 (15)		
建築学専攻 (博士後期課程)	9 (9)			1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)		
応用化学専攻 (博士前期課程)	8 (8)			5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	3 (3)		
応用化学専攻 (博士後期課程)	8 (8)			5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)		
基礎理工学専攻 (博士前期課程)	26 (26)			10 (10)	2 (2)	0 (0)	38 (38)	0 (0)	25 (25)		
基礎理工学専攻 (博士後期課程)	27 (27)			6 (6)	0 (0)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	0 (0)		
新領域創造専攻 (博士前期課程)	10 (10)			3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)		
新領域創造専攻 (博士後期課程)	7 (7)			1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)		
の	概			農学研究科 農芸化学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	1 (1)	8 (8)
				農芸化学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
				農学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	19 (19)	3 (3)	15 (15)
				農学専攻 (博士後期課程)	12 (12)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	0 (0)
				農業経済学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	1 (1)	7 (7)
				農業経済学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
				生命科学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	18 (18)	1 (1)	10 (10)
				生命科学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	6 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (15)	0 (0)	0 (0)
		法務研究科 法務専攻	53 (53)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	20 (20)		
		ガバナンス研究科 ガバナンス専攻	10 (10)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	33 (33)		
分	要	グローバル・ビジネス研究科 グローバル・ビジネス専攻	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	46 (46)		
		会計専門職研究科 会計専門職専攻	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)		
		計	811 (811)	164 (166)	20 (20)	0 (0)	995 (997)	6 (6)	312 (312)		
合 計		815 (815)	164 (166)	22 (22)	0 (0)	1001 (1003)	6 (6)	312 (312)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		440 (440)	203 (203)	643 (643)				
	技 術 職 員		22 (22)	34 (34)	56 (56)				
	図 書 館 専 門 職 員		33 (33)	7 (7)	40 (40)				
	そ の 他 の 職 員		32 (32)	8 (8)	40 (40)				
	計		527 (527)	252 (252)	779 (779)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	238,187㎡	0㎡	0㎡	238,187㎡				
	運 動 場 用 地	368,691㎡	0㎡	0㎡	368,691㎡				
	小 計	606,878㎡	0㎡	0㎡	606,878㎡				
	そ の 他	493,842㎡	0㎡	0㎡	493,842㎡	その他には農場、寄宿舎、借用地、附属学校施設を含む。			
	合 計	1,100,720㎡	0㎡	0㎡	1,100,720㎡				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	258,511㎡ (258,511㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	258,511㎡ (258,511㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	241 室	158 室	381 室	29 室 (補助職員160人)	23 室 (補助職員18人)	大学全体補助職員にTAを含む			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		文学研究科文芸メディア専攻		6 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学共有分図書数 2,422,555 〔854,642〕 学術雑誌数 30,595〔7,956〕 電子ジャーナル数 44〔39〕	
	文学研究科文芸メディア専攻	24,640〔479〕 24,040〔449〕	7〔0〕 7〔0〕	4〔4〕 4〔4〕	39,678 (39,257)	0 (0)	0 (0)	視聴覚資料は大学全体	
	計	24,640〔479〕 24,040〔449〕	7〔0〕 7〔0〕	4〔4〕 4〔4〕	39,678 (39,257)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	23,914 ㎡	3077席		2,429,361		保存書庫を含む			
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	12,450㎡	バレーコート、テニスコート、ゴルフ練習場、プール等						体育館には駿河台スポーツホールを含む	
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		2,296千円	2,346千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		共同研究費等		66,803千円	68,273千円	—千円	—千円	—千円	—千円
		図書購入費	179千円	204千円	298千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	設備購入費	—千円	407千円	630千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	820千円	540千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、資産運用の果実及び寄附金その他の収入をもって維持運営する						

既 設 大 学 の 等 の 状 況	大 学 の 名 称	明 治 大 学 大 学 院							所 在 地
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 員 定 員	取 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	
		年	人	年 次 人	人		倍		
設 大 学 の 等 の 状 況	法学研究科								東京都千代田区 神田駿河台1-1
	公法学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（法学）	0.40	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.55	昭和29年	
	民事法学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（法学）	0.38	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（法学）	0.16	昭和29年	
	商学研究科								
	商学専攻								
	博士前期課程	2	35	—	70	修士（商学）	1.01	昭和27年	
	博士後期課程	3	6	—	18	博士（商学）	0.83	昭和29年	
	政治経済学研究科								
	政治学専攻								
	博士前期課程	2	25	—	50	修士（政治学）	0.58	昭和27年	
	博士後期課程	3	5	—	15	博士（政治学）	1.13	昭和29年	
	経済学専攻								
	博士前期課程	2	35	—	70	修士（経済学）	0.57	昭和27年	
	博士後期課程	3	7	—	21	博士（経済学）	0.23	昭和38年	
	経営学研究科								
	経営学専攻								
博士前期課程	2	40	—	80	修士（経営学）	1.03	昭和34年		
博士後期課程	3	8	—	24	博士（経営学）	0.83	昭和34年		
文学研究科									
日本文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	2.24	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	2.83	昭和39年		
英文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	1.33	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和39年		
仏文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.41	昭和39年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.83	昭和39年		
独文学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.41	昭和46年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（文学）	0.33	昭和49年		
演劇学専攻									
博士前期課程	2	6	—	12	修士（文学）	0.66	昭和46年		
博士後期課程	3	1	—	3	博士（文学）	0.33	昭和49年		
史学専攻									
博士前期課程	2	25	—	50	修士（史学）	0.68	昭和32年		
博士後期課程	3	6	—	18	博士（史学）	1.10	昭和32年		
地理学専攻									
博士前期課程	2	5	—	10	修士（地理学）	0.30	昭和32年		
博士後期課程	3	2	—	6	博士（地理学）	0.50	昭和39年		
臨床人間学専攻									
博士前期課程	2	14	—	28	修士（人間学）	0.74	平成17年		
博士後期課程	3	4	—	12	博士（人間学）	0.50	平成19年		

附属施設の概要	<p>名称：研究・知財戦略機構 目的：本大学において世界的水準の研究を推進するため、重点領域を定めて研究拠点の育成を図り、研究の国際化を推進するとともに、その成果を広く社会に還元する 事業：①本大学における研究の戦略的推進 ②研究を戦略的に推進するための研究環境の重点的整備 ③研究資金確保のための活動 ④研究の国際化推進のための活動 ⑤研究面における社会との連携活動 ⑥知的財産の創出、取得、管理及び活用</p>
	<p>名称：国際連携機構 目的：本大学における国際的な教育交流及び学術・研究交流を推進し、本大学の教育・研究分野の高度化を図るとともに、教育・研究を通じ広く国際貢献を果たす 事業：①国際連携の推進に係る基本戦略の策定 ②教育・研究を通じた国際貢献の推進</p>
	<p>名称：図書館 目的：教育・研究の中核的機関として総合的な教養涵養及び専門的研究の積極的支援を担う 所在地：（中央図書館）東京都千代田区神田駿河台1-1 （和泉図書館）東京都杉並区永福1-9-1 （生田図書館）神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 規模：23,914㎡（蔵書約235万冊，新聞・雑誌約2万6千タイトル，マイクロ資料，CD-ROM等の資料を所蔵）</p>
	<p>名称：博物館 目的：資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行う 所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン地階 規模：商品部門，刑事部門，考古部門の3部門を持つ</p>
	<p>名称：心理臨床センター 目的：臨床心理学的諸問題にかかわる相談・援助活動及び調査・研究を行うことにより、社会貢献を図るとともに、実習機関として臨床心理士の養成を行い、本大学の教育・研究に資する 所在地：東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン7階 設置年月日：平成16年4月 規模：246㎡（面接室3，遊戯療法室2，待合室2）</p>
	<p>名称：工作工場 目的：理工学部（主に機械系）学生に、教科目として数種の簡単な機械要素製作を行わせることにより、工作機械における基本的な加工技術を習得させ、機械の設計・製作に関する全体的な理解を深めることを設置の目的としている 所在地：神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 生田キャンパス内</p>
<p>名称：農場（菅田農場） 目的：農学部附属農場として、農場を擁し専任教職員により各専門分野の研究を行うと同時に農場実習・畜産実習等の実習教育に利用している 菅田農場 所在地：千葉県千葉市 規模：総面積26ha，農耕面積6ha，グラウンドと実習農場に利用されている 野菜・果樹等園芸作物の生産増に重点を置いている</p>	

教育課程等の概要														
(文学研究科 文芸メディア専攻 (M))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
主要科目	文芸メディア演習ⅠA (上代中古日本文学・思想)	1前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅠB (上代中古日本文学・思想)	1後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅠC (上代中古日本文学・思想)	2前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅠD (上代中古日本文学・思想)	2後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅡA (中世近世日本文学・思想)	1前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅡB (中世近世日本文学・思想)	1後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅡC (中世近世日本文学・思想)	2前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅡD (中世近世日本文学・思想)	2後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅢA (近代現代日本文学・思想)	1前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅢB (近代現代日本文学・思想)	1後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅢC (近代現代日本文学・思想)	2前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅢD (近代現代日本文学・思想)	2後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅣA (メディア文化・思想)	1前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅣB (メディア文化・思想)	1後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅣC (メディア文化・思想)	2前	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅣD (メディア文化・思想)	2後	2					○		1				
	文芸メディア演習ⅤA (出版文化・思想)	1前	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅤB (出版文化・思想)	1後	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅤC (出版文化・思想)	2前	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅤD (出版文化・思想)	2後	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅥA (近代現代日本文学・思想)	1前	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅥB (近代現代日本文学・思想)	1後	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅥC (近代現代日本文学・思想)	2前	2					○				1		
	文芸メディア演習ⅥD (近代現代日本文学・思想)	2後	2					○				1		
小計 (24科目)		—	48	0	0	—			4	0	2	0	0	
特修科目	文芸メディア特論ⅠA (上代中古日本文学・思想)	1・2前		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅠB (上代中古日本文学・思想)	1・2後		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅡA (中世近世日本文学・思想)	1・2前		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅡB (中世近世日本文学・思想)	1・2後		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅢA (近代現代日本文学・思想)	1・2前		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅢB (近代現代日本文学・思想)	1・2後		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅣA (メディア文化・思想)	1・2前		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅣB (メディア文化・思想)	1・2後		2				○		1				
	文芸メディア特論ⅤA (出版文化・思想)	1・2前		2				○				1		
	文芸メディア特論ⅤB (出版文化・思想)	1・2後		2				○				1		
	日本文芸史特論A	1・2前		2				○		1				
	日本文芸史特論B	1・2後		2				○		1				
	表象文化特論A	1・2前		2				○						兼1
	表象文化特論B	1・2後		2				○						兼1
	表現創作特論A	1・2前		2				○				1		
	表現創作特論B	1・2後		2				○				1		
小計 (16科目)		—	0	32	0	—			4	0	2	0	0	兼1
科特目定	文芸メディア特別指定講義Ⅰ	1・2前		2				○						
	文芸メディア特別指定講義Ⅱ	1・2後		2				○						
	小計 (2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通特修科目	総合文学研究ⅠA	1・2前		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅠB	1・2後		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅡA	1・2前		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅡB	1・2後		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅢA	1・2前		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅢB	1・2後		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅣA	1・2前		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅣB	1・2後		2		○									兼1	
	総合文学研究ⅤA	1・2前		2		○			1							
	総合文学研究ⅤB	1・2後		2		○			1							
	総合史学研究ⅠA	1・2前		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅠB	1・2後		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅡA	1・2前		2		○									兼5	
	総合史学研究ⅡB	1・2後		2		○									兼5	
	総合史学研究ⅢA	1・2前		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅢB	1・2後		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅣA	1・2前		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅣB	1・2後		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅤA	1・2前		2		○									兼1	
	総合史学研究ⅤB	1・2後		2		○									兼1	
	総合地域研究ⅠA	1・2後		2		○									兼3	集中
	総合地域研究ⅠB	1・2前		2		○									兼3	集中
	総合地域研究ⅡA	1・2後		2		○									兼3	集中
	総合地域研究ⅡB	1・2前		2		○									兼2	集中
	総合地域研究ⅡC	1・2後		2		○									兼1	集中
小計(25科目)		—	0	50	0	—			1	0	0	0	0	兼24		
研究科間共通科目	学術英語コミュニケーション	1・2前後		2		○								兼2		
	英文学術論文研究方法論	1・2前後		2		○								兼3		
	国際系総合研究A	1・2後		2		○								兼1	オムニバス	
	国際系総合研究B	1・2前後		2		○								兼1		
	国際系総合研究C	1・2前後		2		○								兼1		
	国際系総合研究D	1・2前後		2		○								兼2		
	学際系総合研究A	1・2前		2		○								兼1	オムニバス	
	学際系総合研究B	1・2前後		2		○								兼1		
	学際系総合研究C	1・2前		2		○								兼1	オムニバス	
学際系総合研究D	1・2後		2		○								兼1			
小計(10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼11		
合計(77科目)		—	48	106	0	—			4	0	2	0	0	兼36		
学位又は称号		修士(文学)		学位又は学科の分野				文学								
修了要件及び履修方法						授業期間等										
1 32単位以上を修得しなければならない。 2 主要科目及び特修科目並びに共通特修科目の中から、24単位以上を修得しなければならない。 3 所属専攻の特定科目においては、4単位を上限に修得することができる。 4 共通特修科目のうち総合地域研究については、8単位を上限に修得することができる。 5 所属専攻の授業科目のほか、他の専攻若しくは他の研究科(専門職学位課程を含む。)又は単位互換協定による他の大学院の授業科目の修得をもって、修了に必要な単位の一部に加えることができる。 6 所属専攻の特定科目及び他の大学院の履修により修得できる単位は、合わせて10単位を限度とする。 7 別表1の2に規定する研究科間共通科目については、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。 8 指導教員が必要と認めた場合には、別表1の3に規定するプロジェクト系科目を履修することができる。 9 所属専攻の主要科目の中から専修科目を選定し、その演習A～D各2単位(計8単位)を修得すること。ただし、文学研究科委員会の承認を得た場合には、専修科目のうち、4単位は、指導教員の指示により他の授業科目の修得をもって代えることができる。 10 学位論文作成のため、指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(文学研究科文芸メディア専攻 (M))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主要科目	文芸メディア演習ⅠA (上代中古日本文学・思想)	源氏物語の魅力を受け止めながら、源氏受容の問題も考える。 源氏物語「葵」巻を取り上げて、現在最も有名な写本の「大島本」および、最近発見・出版された「飯島本」を読み比べながら、源氏物語の諸問題について考える。 古典文学を扱おうとする時、その本文の問題を抜きにすることは出来ないが、その具体的様相を「大島本」「飯島本」の二写本の読み比べを通して、それぞれの写本の作り上げる「表現世界」を把握しながら、併せて源氏物語の諸問題について考える。	
	文芸メディア演習ⅠB (上代中古日本文学・思想)	近現代に行われた源氏物語の「現代語訳」などのいくつかを取り上げて、源氏物語の魅力を考え、併せてその受容の様態について考える。前期ⅠAと同様、源氏物語「葵」巻を取り上げて、谷崎源氏をはじめとした「現代語訳」などの源氏物語を読み比べる。「翻訳」の実態を踏まえながら、文芸作品が他メディア化されることの意義と問題点を探る。 以上を踏まえた上でさらに、漫画化された源氏・大和和紀源氏、アニメ化された源氏をそれぞれ一回ずつで取り上げ、オリジナルとの距離を計りながら、その達成と限界を考える。	
	文芸メディア演習ⅠC (上代中古日本文学・思想)	写本の読みの習熟を踏まえた上で、日本古代文芸の巨頭である源氏物語を読む。 源氏物語「賢木」巻を取り上げて、現在最も有名な写本の「大島本」および、最近発見・出版された古典文学を扱おうとする時、その本文の問題を抜きにすることは出来ないが、その具体的様相を「大島本」「飯島本」の二写本の読み比べを通して考える。それぞれの写本には、その「表現」を通してそれぞれの写本の作り上げる「表現世界」を把握しながら、併せて源氏物語の諸問題について考える。	
	文芸メディア演習ⅠD (上代中古日本文学・思想)	近現代に行われた源氏物語の「現代語訳」などのいくつかを取り上げて、源氏物語の魅力を考え、併せてその受容の様態について考える。 源氏物語「賢木」巻を取り上げて、谷崎源氏をはじめとした「現代語訳」「英訳本」などの源氏物語を読み比べる。「翻訳」の実態を踏まえながら、文芸作品が他メディア化されることの意義と問題点を探る。 以上を踏まえた上でさらに、漫画化された源氏・大和和紀源氏、アニメ化された源氏をそれぞれ一回ずつで取り上げ、オリジナルとの距離を計りながら、その達成と限界を考えていく。	
	文芸メディア演習ⅡA (中世近世日本文学・思想)	日本近世文学・思想研究として、江戸時代の文学、中でも後期戯作文学を主領域として考究していく。 資料の文献学的な取り扱いに習熟するとともに、思想的・精神的立場から文学テキストを論じることの意義を学ぶ。 上田秋成の『春雨物語』文化五年本から「禁噲」上を取りあげ、「禁噲」の人間像を追いながら、秋成がなぜ『春雨物語』を「発明」せねばならなかったかを考究する。 文芸メディア演習ⅡBに連動し、上田秋成の『春雨物語』を取り上げ、通年をとおして、考究していく。	
	文芸メディア演習ⅡB (中世近世日本文学・思想)	日本近世文学・思想研究として、江戸時代の文学、中でも後期戯作文学を主領域として考究していく。 資料の文献学的な取り扱いに習熟するとともに、思想的・精神的立場から文学テキストを論じることの意義を学ぶ。 上田秋成の『春雨物語』文化五年本から「禁噲」上を取りあげ、「禁噲」の人間像を追いながら、秋成がなぜ『春雨物語』を「発明」せねばならなかったかを考究する。 文芸メディア演習ⅡAに連動し、上田秋成の『春雨物語』を取り上げ、通年をとおして、考究していく。	

<p>主要科目</p>	<p>文芸メディア演習ⅡC (中世近世日本文学・思想)</p>	<p>資料の文献学的な取り扱いに習熟するとともに、思想的・精神的立場から文学テキストを論じることの意義を学ぶ。 日本近世文学・思想研究として、松尾芭蕉の『冬の日』『ひさご』中の歌仙を取り上げ、蕉風俳諧を考究していく。松尾芭蕉は、俳諧史の展開の中で捉えなければ、その本質を明確にしがたい。その観点から蕉風俳諧の展開を追っていく。 文芸メディア演習ⅡDと連動し、松尾芭蕉について取り上げ、通年をとおして、蕉風俳諧を考究する。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅡD (中世近世日本文学・思想)</p>	<p>資料の文献学的な取り扱いに習熟するとともに、思想的・精神的立場から文学テキストを論じることの意義を学ぶ。 日本近世文学・思想研究として、松尾芭蕉の『冬の日』『ひさご』中の歌仙を取り上げ、蕉風俳諧を考究していく。松尾芭蕉は、俳諧史の展開の中で捉えなければ、その本質を明確にしがたい。その観点から蕉風俳諧の展開を追っていく。 文芸メディア演習ⅡCと連動し、松尾芭蕉について取り上げ、通年をとおして、蕉風俳諧を考究する。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅢA (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>「文化の引用としての文学テキスト」について考察していく。 具体的には、前田愛『都市空間のなかの文学』・佐藤義雄『文学の風景 都市の風景』・川本三郎『郊外の文学誌』を論述し、引用された文化内容を調査分析検討し、それが具体的な文学テキストにどう引用されているかを読み込み、既存の論から自立した新たな文学テキストの読みの可能性をつかみだしていく。 そして、受講者が各自でテキストを選定し、テーマを決め、論証のための方法やプロセスの指導のもと、論文を作成するための準備とする。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅢB (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>文芸メディア演習ⅢAに引き続き、「文化の引用としての文学テキスト」について考察していく。 文芸メディア演習ⅢAの要点・問題点を確認した後、引用された文化内容を調査分析検討し、それが具体的な文学テキストにどう引用されているかを読み込んで、論文作成および発表を、各々行っていく。 そして、教員および受講者同士は、発表された論文に対し、意見や質疑応答をしていく。 また、発表するにあたり、どのように発表したらよいか等プレゼン能力についても指導していく。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅢC (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>「文化の引用としての文学テキスト」について考察していく。 都市・都市文化の引用としてのテキスト分析という観点から、都市空間・都市文化を中心に論じられた論文を、あくまでも自己の実践の立場から読む。水準の高い論文ないしレポートを書きあげることが最終的な到達目標である。具体的に、前田愛・佐藤義雄・川本三郎・小田光男・奥野健男らについて論述し、文芸メディア演習ⅢD)に向けての準備していく。 受講者が各自でテキストを選定し、テーマを決め、論証のための方法やプロセスの指導のもと、論文を作成する。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅢD (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>都市・都市文化の引用としてのテキスト分析という観点から、文芸メディア演習ⅢCをふまえて各自がテキスト分析を試みる。 そのために、この演習のための説明を行い、その説明を受けて、 (1)参加者各自がテキストを選定し、(2)テーマを設定し、 (3)論証のための方法やプロセスの指導を受けて、(4)レジュメに基づいて発表し、(5)論文(レポート)を作成する。 また、発表するにあたり、どのように発表したらよいか等プレゼン能力についても指導していく。</p>	
	<p>文芸メディア演習ⅣA (メディア文化・思想)</p>	<p>メディア文化論を学ぶ。代表的なメディア論を手がかりに、メディア文化の諸相を学ぶ。具体的には、メディアの作る環境、メディアとステレオタイプ、メディアと情報操作、メディアと世論、メディアと疑似イベント、メディアとジェンダー、メディアとスポーツ、地域メディアとグローバルメディア、メディア環境の変容とメディアリテラシー、ネットワーク社会と文化の変容などのテーマの考察を通して、現代のメディアとメディア状況の特性を検討する。</p>	

<p>主要科目</p>	<p>文芸メディア演習IVB (メディア文化・思想)</p>	<p>日本人論を読む。南博『日本人論：明治から今日まで』（岩波書店）を基本テキストとして、明治以降今日までの代表的な日本人論の系譜をたどり、日本人論で繰り返し語られてきたテーマを再検証する。具体的な内容は、国民性とは何か、日本人論の成立、日本人優秀説、日本人劣等説、風土論の系譜、日本人の美意識、日本人の宗教意識、日本人の家族観・結婚観、日本語と日本文化、日本人の法意識と政治文化、「日本の経営」論、日本人と天皇制などである。</p>	
	<p>文芸メディア演習IVC (メディア文化・思想)</p>	<p>メディア史の主要な論点を再検証する。具体的な内容は以下の通りである。ーメディア史を学ぶことの意義、メディアの誕生、印刷技術と活字メディア、新聞と近代ジャーナリズム、電話というメディアの誕生と展開、映画というメディアの誕生と展開、ラジオというメディアの誕生と展開、テレビメディアとテレビ文化、広告メディアの誕生と展開、ケータイメディアとケータイ文化、パソコンとネットワーク社会、メディアと大衆娯楽の変容、メディアと生活意識の変容などである。</p>	
	<p>文芸メディア演習IVD (メディア文化・思想)</p>	<p>メディア論を読む。メディアとは何かを日本の大衆芸能の歴史に沿って、検討する。加藤秀俊『メディアの発生』（中央公論新社）を基本テキストとして、次のようなテーマを扱う。ーメディアとは何か、聖と俗、「むすび」の構造、メディアとしての自然、メディアとしての身体、メディアとしての神、メディアとしての性、メディアとしての大衆文芸、メディアとしての「語り」、祝祭のメディア、メディアとしての大衆歌謡、メディアとしての遊び等々。</p>	
	<p>文芸メディア演習VA (出版文化・思想)</p>	<p>文芸作品を世の中に広めるメディアとして、新聞・雑誌の書評欄・読書コーナーは、大きな役割を果たしてきた。そこで、文芸メディア演習VAでは、日刊全国紙と地方の特色が顕著にあらわれる地方紙の実際の紙面を材料に、現在の「書評空間」を探索し、考察していく。 具体的には、「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「産経新聞」「東京新聞」「日本経済新聞」「北海道新聞」「沖縄タイムス」など、4月期から6月期のものを取り扱う。</p>	
	<p>文芸メディア演習VB (出版文化・思想)</p>	<p>文芸作品を世の中に広めるメディアとして、新聞・雑誌の書評欄・読書コーナーは、大きな役割を果たしてきた。そこで、文芸メディア演習VBでは、総合月刊誌、総合週刊誌、さらに文芸専門月刊誌の実際の誌面を材料に、現在の「書評空間」を探索し、考察していく。 具体的には、月刊総合誌「文芸春秋」「中央公論」「正論」「Voice」・週刊総合誌「週刊朝日」「サンデー毎日」「週刊文春」・文芸誌「群像」「新潮」「すばる」「文學界」など、4月期から6月期のものを取り扱う。</p>	
	<p>文芸メディア演習VC (出版文化・思想)</p>	<p>文芸メディア演習VCでは、文芸作品を世の中に広めるメディアとして、大きな役割を果たしてきた新聞の書評欄・読書コーナーの歴史をたどりつつ、日本の出版の足どりとの関係を探し、考察する。日本で最初に読書面を確立させた「朝日新聞」の戦後の読書面を軸に「読売新聞」「毎日新聞」「日本経済新聞」を把握する。 1960・1970・1980・1990年代と2000年・2001年度以降と時代を区切って、「朝日新聞」と「読売新聞」「毎日新聞」「日本経済新聞」を比較しながら考察していく。</p>	
	<p>文芸メディア演習VD (出版文化・思想)</p>	<p>文芸作品を広めるメディアとして、大きな役割を果たしてきた新聞・雑誌の書評欄・読書コーナーだが、2010年を前にして、雑誌自体の終刊が相次ぎ、かつてのような影響力を失いつつある。他方、IT時代において注目されるべきなのは、書評ブログおよび、オンライン書店が採用した顧客自身の手による評価である。 文芸メディア演習VCでは、2000年代に書評メディアであった新聞・雑誌の書評欄・読書コーナーの衰退のありさまを検証しつつ、台頭しつつあるITメディアの実情を把握し、「書評」をめぐるメディア交代やその過程について考察する。</p>	

主要科目	文芸メディア演習VIA (近代現代日本文学・思想)	文芸メディア演習VIAでは、坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『小説総論』、夏目漱石『文学論』など各作家について5回ずつ考察していき、「文学」「小説」という新しいものとの出会いの中でいかに苦闘しつつ書かれたものかを見ていきたい。 到達目標として、近代における「文学」概念の成立とそのゆくえ： われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代においていつどのように成立したのかを考えていく。	
	文芸メディア演習VIB (近代現代日本文学・思想)	文芸メディア演習VIBでは、柄谷行人『日本近代文学の起源』『近代文学の終り』を中心に、最近かまびすしい「文学の終焉」について考え、「文学」概念がどのような状況の下でどのように揺らいでいるのかを読み解いていきたい。 到達目標として、近代における「文学」概念の成立とそのゆくえ： われわれが現在「文学」というあまりに自明なものとして捉えている概念が、近代において成立した後、現在それがいかに揺らぎつつあるのかを考えていく。	
	文芸メディア演習VIC (近代現代日本文学・思想)	文芸メディア演習VICでは、近代文学、特に日本のそれは、藝術の自律性を唱えるあまり、社会から遊離する傾向があった。現在の文学の閉塞状況の原因の一つはそこにあるのではないかと考察し、幸徳秋水や小林多喜二や石川啄木らに焦点をあてる。もちろんそうした傾向を批判する者たちもあり、彼らの批判を分析することにより、近代文学のそうありえた可能性を探っていく。 到達目標として、文学と社会。近代文学、特に日本のそれが、当時の社会とどのような関係を築いてきたのかを考えていく。	
	文芸メディア演習VID (近代現代日本文学・思想)	文芸メディア演習VIDでは、近代文学、特に日本のそれは、藝術の自律性を唱えるあまり、社会から遊離する傾向があった。現在の文学の閉塞状況の原因の一つはそこにあるのではないかと考察し、大岡昇平や遠藤周作や三島由紀夫らに焦点をあてる。戦後文学の辿ってきた道をふりかえり、現代文学がいま直面している問題を考えることにより、文学の今後を展望していく。 到達目標として、文学と社会。近代文学、特に日本のそれが、当時の社会とどのような関係を築いてきたのかを考えていく。	
特修科目	文芸メディア特論IA (上代中古日本文学・思想)	上代中古日本文学・思想として、源氏物語における「歌」の位置を考えていく。「歌」とは何か、の根本問題を考えつつ、その「歌」を要請する「物語」のあり方についても考える。 源氏物語の最後の女主人公浮舟を取り上げて、その詠歌の場を中心として読んで行く。また、源氏物語の諸問題を、併せて考えていく。 具体的には、各講義において、トピックスを設定し、文芸メディア特論IBと連動し、通年で、女主人公浮舟について考察していく。	
	文芸メディア特論IB (上代中古日本文学・思想)	上代中古日本文学・思想として、源氏物語における「歌」の位置を考えていく。「歌」とは何か、の根本問題を考えつつ、その「歌」を要請する「物語」のあり方についても考える。 源氏物語の最後の女主人公浮舟を取り上げて、その詠歌の場を中心として読んで行く。また、源氏物語の諸問題を、併せて考えていく。 具体的には、各講義において、トピックスを設定し、文芸メディア特論IAと連動し、通年で、女主人公浮舟について考察していく。	
	文芸メディア特論IIA (中世近世日本文学・思想)	江戸時代は極めて多くの小説が、出版メディアを通じて流布した時期となっている。その出版メディアとの関係に焦点を置き、「メディアとしての小説」の存在性格を究明していく。 文芸メディア特論IIAでは、近世小説史概観から、具体的に、御伽草子・仮名草紙・浮世草子の形成および、井原西鶴・西鶴以後までについて論じつつ、近世前期における「小説」概念について考究し、「小説とは何か」という問題をメディア論的に考えていく。	

<p>特 修 科 目</p>	<p>文芸メディア特論ⅡB (中世近世日本文学・思想)</p>	<p>江戸時代は極めて多くの小説が、出版メディアを通じて流布した時期となっている。その出版メディアとの関係に焦点を置き、「メディアとしての小説」の存在性格を究明していく。 文芸メディア特論ⅡBでは、西鶴以後の近世小説史の中で、洒落本と読本（上田秋成・山東京伝・曲亭馬琴）や戯作について中心に論じていく。出版文化史的な観点を踏まえつつ、西鶴以後の近世後期における「小説とは何か」という問題をメディア論的に考えていく。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅢA (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>正統的なものから現代的なものに及ぶ様々な文学研究・文学批評の検討のうえに、文献学的・国文学的日本近代文学研究とは異なった、メディア論も含めた新たな文化研究的な近代文学研究の可能性を探る。 そのために、現在主導的立場にあるテキスト論的文学研究、旧来のオーソドックスな文学研究としての作家作品論、伝記研究的文学研究、社会文芸学、読者論、言語の本質と文芸、欧米の文学研究理論、そして民俗学・文化人類学を取り込んだ直近の都市と文学の研究といった様々な文学研究の方法を巡って講述していく。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅢB (近代現代日本文学・思想)</p>	<p>都市と文学の研究を考究していく。様々な文化資料の博搜と実際のフィールド調査に基づいて、都市やと都市文化がテキストにどう「引用」され、テキストの性格をどう形作っているか近代日本文学について講述していく。都市・都市文化の「引用」ということは、あらゆる文化の「引用」ということとなる。 上記の目標に沿って、日本近代文学のテキストのうち、特徴的なものを取り上げ、具体的なテキスト分析の方法も含めて説明していく。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅣA (メディア文化・思想)</p>	<p>文芸メディア特論ⅣAでは、社会学や社会心理学をベースに、メディアとコミュニケーションの諸相を大衆文化や若者文化との関連で学ぶ。 具体的には、パーソナルコミュニケーションとマスコミュニケーションを比較・検討しながら、ロコミとマスコミの相互作用、デマやうわさやマスメディアとの関わりを考察する。さらに、流行現象を中心に、メディアと大衆文化・大衆娯楽・広告文化や若者文化との関連を具体的な事例の考察を通して社会心理史的に跡づける。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅣB (メディア文化・思想)</p>	<p>文芸メディア特論ⅣBでは、メディアの展開過程を日本人の生活史と関連づけて考察していく。 具体的には、マスメディアの前史としての江戸時代から現代までの生活史とメディアとの関係を見ていく。特にマスメディアの萌芽期の昭和初期と敗戦後の復興期、高度成長期を重点的に扱う。それらの各時代のメディア状況の特質と社会背景、社会心理のあり様を検討する。それを通して、メディアと生活の変容過程について考察していく。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅤA (出版文化・思想)</p>	<p>文芸メディア特論ⅤAでは、ナショナリズム研究の新しい古典と称される『想像の共同体』を、言語の問題およびその印刷による大量複製・普及の観点を中心に読む。 教科書は、ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』とし、各回、あらかじめ文献には目を通して講義に臨んでもらいたい。 参考図書として、アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』と谷川稔『国民国家とナショナリズム』を指定するので、これらについても目を通して、講義に臨むこと。</p>	
	<p>文芸メディア特論ⅤB (出版文化・思想)</p>	<p>文芸メディア特論ⅤBでは、第二次世界大戦敗戦後の米軍による占領支配が、文芸作品というメディアを通してどのように表現され、また、受容されてきたのか、文化研究者マイク・モラスキーの『占領の記憶/記憶の占領—戦後沖縄・日本とアメリカ』を読んで考察する。その際、本書で重点的に言及されている文芸作品自体にも言及する。 具体的には、小林信夫「アメリカン・スクール」・大城立裕「カクテルパーティー」・東峰夫「オキナワの少年」・大江健三郎「飼育」・「人間の羊」など取り扱う。</p>	

特 修 科 目	日本文芸史特論A	<p>文芸を対象化するためには、その時代や社会への目配りがなければならない。ここでは、文芸思潮と時代や社会の思想潮流を文化史・精神的な枠組みの中で捉え、その関連性を考察していく。</p> <p>日本文芸史特論Aでは、禅や浄土思想の日本的性格を視野に収め、日本の文芸思潮に大きな影響を与えたものの一つに仏教思想がについて考究する。この授業では、その仏教思想の中でも、禅仏教に焦点を当て、日本の文芸との精神的連関を探っていく。</p>	
	日本文芸史特論B	<p>文芸を対象化するためには、その時代や社会への目配りがなければならない。ここでは、文芸思潮と時代や社会の思想潮流を文化史・精神的な枠組みの中で捉え、その関連性を考察していく。</p> <p>日本文芸史特論Bでは、近代日本の思想と文学について目をむけ、ひいては日本の思想についても考究する。この授業では、具体的に、丸山眞男『日本の思想』を取り上げ、丸山の視座に依拠しながら、近代日本の思想と文学の相互浸透の様を考究していく。</p>	
	表象文化特論A	<p>文学的手法に関する研究として自然表象の問題を考察するためには、山岳的自然の理解、表象的な記号装置、文学的描写などの諸要素面での分析、またもろもろの自然表象の類型の抽出といったことがプロセスとして考えられる。</p> <p>この講義では、以上のことを踏まえて、山岳的自然表象の問題について、表象的方法に関する原理論的な問題を扱うとともに、実際の作品群を取り上げて、文字テキストおよび映像の各表象メディアについて具体的な表象の事例を研究しながら、批評的手法の習得へとつなげていく。</p>	
	表象文化特論B	<p>この講義では、特に東西の比較と翻訳を基本テーマに取り上げる。</p> <p>自然表象の形態において西欧と日本では異なるものであることは、ある意味で当然のこととはいえ、山岳の領域について主題的に見ると、その相違はことさらに際立ってくる。そこで、具体的な事例を取り上げて両者の比較を、比較文化・比較思想の観点からおこなう。その上で、翻訳の問題について、西欧言語から日本語への翻訳に関して考慮すべき諸事項について検討をおこない、実際のサンプル的な翻訳も試みながら、翻訳手法の習得をへとつなげていきたい。</p>	
	表現創作特論A	<p>表現創作特論Aでは、現代文学がなにを目指しなにを成し遂げてきたのかを振り返り、同時代文学の書き手たちがいまなにをしようとしているのかを探っていく。</p> <p>到達目標として、「創作」を目指し、まずそのための基礎を学ぶ。無からの創造は不可能であり、「新しい」ためにはすでににながなされてきたのかを知るすべを模索する。</p> <p>具体的には、戦後文学のエコール・大江健三郎の方法・島田雅彦の方法・保坂和志の方法について考究していく。</p>	
	表現創作特論B	<p>表現創作特論Bでは、現代文学がなにを目指しなにを成し遂げてきたのかを振り返り、同時代文学の書き手たちがいまなにをしようとしているのかを探る。そして、同時代作家たちのデビュー作を読み、また視野を外国文学にも広げていく。</p> <p>到達目標として、「創作」を目指し、まずそのための基礎を学ぶ。無からの創造は不可能であり、「新しい」ためにはすでににながなされてきたのかを知るすべを模索する。</p> <p>具体的には、金原ひとみの方法・白岩玄の方法など、最近の書物についても考究していく。</p>	
	特 定 科 目	文芸メディア特別指定講義 I	<p>文芸メディア専攻は、指導教員と相談の上、学部設置科目の履修について4単位を上限に履修できる。</p> <p>単位を修得した学部設置科目は、「文芸メディア特別指定講義」として読み替えて大学院の修了要件単位として含める。ただし、学部設置科目を履修するにあたっては、学生の専門分野の知識や視野を広げるための学部設置科目を選択しなければならない。そのため、指導教員からガイダンス等で指導を受け、学部設置科目の担当教員の承認のもと履修することができる。</p>

特定科目	文芸メディア特別指定講義Ⅱ	<p>文芸メディア専攻は、指導教員と相談の上、学部設置科目の履修について4単位を上限に履修できる。</p> <p>単位を修得した学部設置科目は、「文芸メディア特別指定講義」として読み替えて大学院の修了要件単位として含める。ただし、学部設置科目を履修するにあたっては、学生の専門分野の知識や視野を広げるための学部設置科目を選択しなければならない。そのため、指導教員からガイダンス等で指導を受け、学部設置科目の担当教員の承認のもと履修することができる。</p>	
共通特修科目	総合文学研究ⅠA	<p>「文学と思想」について、総合文学研究ⅠA・ⅠBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅠAでは、文学を研究するのに、あるいは現代の文学批評を読むのに、役に立ちそうな概念を取り上げ、それらがどのような意味を持ち、どのように使えるのかを考察していく。現代の出発点として、ニーチェ、演劇論、文学の構成要素、文学と社会、時間、記号などについて、代表的なテキストを読みながら講義をし、ディスカッションをおして理解を深めていく。</p>	
	総合文学研究ⅠB	<p>「文学と思想」について、総合文学研究ⅠA・ⅠBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅠBでは、さまざまな時代にさまざまな言語で書かれた文学作品を研究する者を受講者として想定して、二〇世紀欧米の紀文芸批評の方法論を紹介し、その可能性と問題点を考える。言語学、記号学、修辞学や、絵画、音楽などの諸芸術をめぐる理論など周辺領域にも言及する。フランス文学のブルーストやアランなどを取り扱い、実存主義と文学や言語の現象学と解釈学についても考察していく。</p>	
	総合文学研究ⅡA	<p>「比較文学」について、総合文学研究ⅡA・ⅡBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅡAでは、演劇を中心とするさまざまな文化表象における東西文化の交流の諸相を比較・検証し、その作業の中で文化の独自性とは何かという問題を意識し、諸文化の交流・融合の可能性について考察する。</p> <p>具体的に、日本と西洋について、美術・演劇・映画について比較をし、異文化交流について考察していき、21世紀の文化融合の可能性について探っていききたい。</p>	
	総合文学研究ⅡB	<p>「比較文学」について、総合文学研究ⅡA・ⅡBは取り扱っていく。</p> <p>文学の研究方法としての比較文学は、これまで多くなされてきたが、比較文学そのものを生きた、あるいは生きている作家たちに大きな関心が寄せられている。母語の外にでることによる言語との出会いは、文学に新しい地平を生み出す可能性を秘めている。この授業では、異国に対する眼差しの創作において持ち続けた、あるいは持ち続けている作家や評論家のテキストを読んでいく。</p>	
	総合文学研究ⅢA	<p>「言語学」について、総合文学研究ⅢA・ⅢBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅢAでは、『デカルト派言語学：合理主義思想の歴史の一章』をテキストとして、「言語とは何か？」さらには「人間とは何か？」という問いについて理解を深めることを目的としていく。</p> <p>本講義は、文学を専門としながらも言語について興味のある学生や政治的思想・発言に興味があり、その基礎となっている言語観・人間観についても知りたいと思っている学生についても対応していく。</p>	
	総合文学研究ⅢB	<p>「言語学」について、総合文学研究ⅢA・ⅢBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅢBでは、語学的方法・成果について一般的なものを目指していく。</p> <p>具体的には、ソシュール『一般言語学講義』を購読しながら、共時言語学における諸問題について、討議をしていきたい。</p> <p>そのために、共時態の設定や共時態の時間的構造について講義した後、「現代」とはいつか？・「近代」とはいつか？について考察していく。</p> <p>教科書は特に用いないが、参考書として、各種言語学辞典（事典）を用いて講義を進めていく。</p>	

共通特修科目	総合文学研究ⅣA	<p>「文学と教育」について、総合文学研究ⅣA・ⅣBは取り扱っていく。</p> <p>最初のガイダンスで、文学と教育の問題点について講述をした後、各回で扱う文学作品をあらかじめ受講者は読んできて、自分ならこの教材でどのように授業を実践するかを考察していき、自己の研究の発展をめざす新たな糸口とさせることを目指し、自らの立脚点の再構築をはかっていくことを目標とする。</p> <p>取り扱う資料は、「羅生門」「山月記」「こころ」「どんづつね」など予定している。</p>	
	総合文学研究ⅣB	<p>「文学と教育」について、総合文学研究ⅣA・ⅣBは取り扱っていく。</p> <p>最初のガイダンスで、日程・報告者を決定する。各回で扱う文学作品をあらかじめ受講者は読んできて、自分ならこの教材でどのように授業を実践するかを考察していき、自己の研究の発展をめざす新たな糸口とさせることを目指し、自らの立脚点の再構築をはかっていくことを目標とする。</p> <p>取り扱う資料は、「月に吠える」「父帰る」「城の崎にて」「カインの末裔」など予定している。</p>	
	総合文学研究ⅤA	<p>「文学と都市空間」について、総合文学研究ⅤA・ⅤBは取り扱っていく。</p> <p>文学テキストが様々な文化の引用の織物であるということは、自明なことだが、この講義では、特に都市空間・都市文化の引用としてのテキストを捉え分析・検討していく。当然、作家作品論的資料よりも生活文化をも含めた様々な文化資料を取り込んだテキスト分析になり、思想から風俗に至る様々な文化領域の資料を積極的にとり入れていく。</p> <p>総合文学研究ⅤAでは、講義形式で授業を進めていく。</p>	
	総合文学研究ⅤB	<p>「文学と都市空間」について、総合文学研究ⅤA・ⅤBは取り扱っていく。</p> <p>総合文学研究ⅤAでは、講義形式で授業をすすめていったが、総合文学研究ⅤBは、理論と研究を展望し、参加者各自の研究対象・研究領域と関連させたテーマでの演習を行っていきたい。</p> <p>地理・社会・歴史・風俗・思想・建築・映画などさまざまな文化領域の資料を取り入れ、さまざまな資料を読み、町の痕跡を求め、テキストの読み返しというようなスタイルで演習を行う。</p>	
	総合史学研究ⅠA	<p>「歴史教育」について、総合史学研究ⅠA・ⅠBは取り扱っていく。</p> <p>歴史研究・歴史教育・歴史叙述の三位一体の研究を進めることが今、求められており、歴史教育は歴史研究の成果に基づかなければならないということはいままでもない。総合文学研究ⅠAでは、その中の歴史教育について深めていく。そこで、戦後の代表的な歴史教育に関する論文を分析しながら歴史教育の現在の到達点と課題を考究していくことを目標としていく。</p> <p>そのために、受講者は、指定の文献を購読して参加し、積極的に意見交流をするようにしてもらいたい。</p>	
	総合史学研究ⅠB	<p>「歴史教育」について、総合史学研究ⅠA・ⅠBは取り扱っていく。</p> <p>歴史叙述や歴史教育のあり方によって国民の歴史認識は大きく影響を受ける。したがって、歴史学研究成果に基づかない歴史叙述は大きな問題を残すこととなる。そこで、歴史学から歴史教育へどう関連付けて歴史叙述をするべきか考察していく。</p> <p>具体的に、総合史学研究ⅠBでは、司馬遼太郎の歴史観を分析しつつ、歴史叙述と歴史学研究成果の関連について検討しつつ、併せて国境を越えた歴史叙述について深めていく。</p>	

共通特修科目	総合史学研究ⅡA	<p>「文学と歴史学」について、総合史学研究ⅡA・ⅡBは取り扱っていく。</p> <p>現代の研究は、文学・歴史学・考古学を問わず、必ずしも各分野の領域では完結できないような広がりを持ってきている。他分野の研究を理解し、自らの研究に取り組むには、その研究手法に精通する必要がある。本講義では、他領域の研究方法を学修し、その方法論を検討していく。</p> <p>このカリキュラムでは、各分野の基本文献を学習し、自らの立脚点の再構築をはかる。</p>	
	総合史学研究ⅡB	<p>「文学と歴史学」について、総合史学研究ⅡA・ⅡBは取り扱っていく。</p> <p>日本文学・日本史学及び考古学を専攻する院生の中で、主に古代を研究領域とする者を対象に、各分野の基本文献の読解を通じて、文学研究・歴史学研究・考古学研究の方法の関係を学び、自己の研究の発展をめざす新たな糸口とさせることを目指す。</p> <p>総合史学研究ⅡAでは講義中心となるが、総合史学研究ⅡBは、各分野の基本文献を研究し、自らの立脚点の再構築をはかる。</p>	
	総合史学研究ⅢA	<p>「東アジアの政治と社会」について、総合史学研究ⅢA・ⅢBは取り扱っていく。</p> <p>中国の近現代史を対象として、東アジアの政治と社会について考察していきたい。最初に、中国近現代史研究の変遷を概観したのちに、近現代中国の政治と社会をめぐる近年の史料状況や議論、新たな研究方法について講述していく。受講生は、問題意識を持って授業に臨み、各自の専門分野と対比できるようにしていきたい。</p> <p>東アジアの政治と社会についての研究入門であるので、アジア史を専門としない受講者も歓迎する。</p>	
	総合史学研究ⅢB	<p>「東アジアの政治と社会」について、総合史学研究ⅢA・ⅢBは取り扱っていく。</p> <p>10世紀から15世紀の東アジアの歴史変容、及び中国近世史の諸問題を中心に、アジア史の研究史や研究方法について講述する。授業を通して、日本におけるアジア史研究の特徴を理解し、西洋史・日本史などとの違いを考察する。また、近年のアジア中近世研究の諸問題と研究手法を学ぶ。</p> <p>東アジアの政治と社会についての研究入門であるので、アジア史を専門としない受講者も歓迎する。</p>	
	総合史学研究ⅣA	<p>「世界システム論」について、総合史学研究ⅣA・ⅣBは取り扱っていく。</p> <p>15世紀以降のヨーロッパ世界の形成過程から帝国主義の時代までを中心に、ヨーロッパについての様々な見方、ヨーロッパ側からの歴史学研究法について考察し、日本におけるヨーロッパ史（あるいはヨーロッパ）研究の特徴を理解していく。</p> <p>受講者全員が、授業で取り上げる文献・史料および授業内容について討論し、それをレポートにまとめて提出する授業形態とする。</p> <p>ヨーロッパ近代史研究の研究入門であるので、西洋史を専門としない受講者も歓迎する。</p>	
	総合史学研究ⅣB	<p>「世界システム論」について、総合史学研究ⅣA・ⅣBは取り扱っていく。</p> <p>近代世界の成立過程を、今や古典になったウォーラーズテインの近代世界システム論を中心に再検討していく。彼の理論は、これまでの近代史研究において重要な貢献をしてきたが、20世紀末の激動を経た現在において、また大理論に対する否定的な歴史研究の動向のなかで、どのような射程と有効性をもっているのか（あるいはもっていないのか）がとわれているといえよう。この問題を、彼の著作の綿密な読解と参加者の積極的な討論を通して、明らかにしていくことを目指していく。</p>	

共通特修科目	総合史学研究VA	<p>「考古学と人文社会緒科学」について、総合史学研究VA・VBは取り扱っていく。</p> <p>この講義では、K. R. Dark著Theoretical Archaeology (Cornell University Press, 1995)を受講者全員で精読しながら、考古学と周辺諸科学との関係を理解し、人文社会科学における考古学の位置づけを議論する。考古学はどのような研究法・理論的枠組みを周辺諸科学から借用しているのか、考古学はどのような形で周辺所科学について貢献しているのか考察していく。</p> <p>また、英文文献の効果的な読解法なども合わせて伝授していく。</p>	
	総合史学研究VB	<p>「考古学と人文社会緒科学」について、総合史学研究VA・VBは取り扱っていく。</p> <p>この講義では、K. R. Dark著Theoretical Archaeology (Cornell University Press, 1995)を受講者全員で精読しながら、考古学と周辺諸科学との関係を理解し、人文社会科学における考古学の位置づけを議論する。そして、海外の理論的枠組みや方法論がどのような背景で生まれ、発展してきたのか、講義していく。</p> <p>また、英文文献の効果的な読解法なども合わせて伝授していく。研究のフィールドが日本で、英語に自身のない受講生も歓迎する。</p>	
	総合地域研究IA	<p>本科目の目的は、大学院GP<複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム>により開設されたもので、各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」をもって臨む力を養うことにある。</p> <p>総合地域研究IAでは、中心一周縁性分析性の分析視覚を実地に体得する教育として、「東日本プログラム」とし、フィールド調査からなる。</p> <p>フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。</p>	
	総合地域研究IB	<p>本科目の目的は、大学院GP<複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム>により開設されたもので、各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」をもって臨む力を養うことにある。</p> <p>総合地域研究IBでは、中心一周縁性分析性の分析視覚を実地に体得する教育として、「西南日本プログラム」とし、フィールド調査からなる。</p> <p>フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。</p>	
	総合地域研究IIA	<p>本科目の目的は、大学院GP<複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム>により開設されたもので、各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」をもって臨む力を養うことにある。</p> <p>総合地域研究IIAでは、隣国である韓国の最新の古代学研究成果を吸収することを通して、学際性と国際性を体得するプログラムとして、「慶北大学プログラム」を実施する。</p> <p>フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。</p>	
	総合地域研究IIB	<p>本科目の目的は、大学院GP<複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム>により開設されたもので、各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」をもって臨む力を養うことにある。</p> <p>総合地域研究IIBでは、隣国である韓国の最新の古代学研究成果を吸収することを通して、学際性と国際性を体得するプログラムとして、「高麗大学プログラム」を実施する。</p> <p>フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。</p>	

共通特修科目	総合地域研究ⅡC	<p>本科目の目的は、大学院G P <複眼的日本古代学研究の人材育成プログラム>により開設されたもので、各個人の研究課題を深化させる際に、より学問分野横断的・学際的視野をそなえた「複眼性」をもって臨む力を養うことにある。</p> <p>総合地域研究ⅡCでは、アメリカ合衆国南カリフォルニア大学における日本古代学研究者との交流を通して、学際性と国際性を体得するプログラムとして、「南カリフォルニア大学プログラム」を実施する。</p> <p>フィールド調査は、事前に各自の調査の主眼項目を事前に提出し、事後にレポートの提出を求める。</p>	
研究科間共通科目	学術英語コミュニケーション	<p>講義形式による。科目は初級・中級・上級のレベル別に開講し、受講生の英語能力に合わせて実施する。講座の達成目標は、大学院生が国際学会や海外研究者との交流において、共通言語である英語を駆使し、国際的な学術世界へとたどり着くことである。学生は、各段階のレベルを上げ、当該の授業を継続して受講することにより、英語のコミュニケーションスキルを向上させる。授業計画は、レベルにより異なるが、適宜学生の発表の場を設ける等、教員と学生、学生間の双方向的形式により学術的な英語コミュニケーションの実施を恒常的に行なう。</p>	
	英文学術論文研究方法論	<p>原則は講義形式としているが演習的要素を含め実施する。科目はライティング中心の初級・中級・上級のレベル別及び研究方法論に特化した形式で開講し、受講生の目的や英語記述能力に合わせて実施する。講座の達成目標は、大学院生に国際的な研究方法、英文の記述構成等を身につけさせ、国際的な学術誌への投稿を促進することである。授業計画は、目的やレベルにより異なるが、テーマを設けケーススタディにより恒常的に書くことに親しませる。その他、学術論文において必要なノートテイキング、要約、引用及び校正の方法についても教える。</p>	
	国際系総合研究A	<p>アジア地域における平和・環境圏構築をテーマとし、その実現のための諸条件を研究・考察するために、大気や海洋汚染や国際リサイクルなど環境問題、原子力利用やマラッカ海峡の海賊問題、過剰開発など平和に関わる問題など諸問題を取り上げ、学際的アプローチにより学生に複眼的な視点からの理解を促すことを第1の目的とする。またそれらの諸問題に「主体的に関わる」方法や取り組みについて、実務経験者を招聘し、現場での経験を踏まえ国際協力への関わりを検討することを第2の目的とする。授業は各国のテーマに関する専門家、実務経験者をゲスト講師に引きオムニバス講義形式により実施する。</p>	
	国際系総合研究B	<p>講座タイトルを地域コミュニティ・ファシリテーション研究と題し、国民国家の成立と資本主義経済の進行によって、長年にわたって人々の生活・自治単位であった「地域コミュニティ」について、その変遷と今後の展望を、日本とアジア各国の具体的な「地域づくり」「コミュニティ開発」の事例から考え、具体的に現場に関わる際のファシリテーション手法やNPO運営等、実践的な方法論も学ばせる。授業計画は、「コミュニティの原型とその衰退」、「新たなコミュニティ再生～①実例編～」、「新たなコミュニティ再生～②実践編～」の3部構成とし、ワークショップ型の授業を行う。なお、講義は全て英語で実施する。</p>	
	国際系総合研究C	<p>“Contemporary Issues in Marketing Management”と題し、大学院レベルで現代のマーケティング及び企業行動について紹介する。この講義では、米国やヨーロッパにある様々な企業を取り上げて、現在の流行を注意深く分析、統合及び評価できる実用的なスキルを身につけることが目的である。講義では、H&M、IKEA、ブリティッシュ・エアウェイズ、ジャガー、LVMH等の企業を取り上げる。講義は授業のみにならず、ディスカッションや小グループワーク等が含まれる。なお、講義は全て英語で実施する。</p>	

研究 科 間 共 通 科 目	国際系総合研究D	“Japanese Society in the New Millennium”と題し、実際に役に立つ日本の社会及び文化に関する基礎的な知識を深めていく。この講義の目的は3つあり、1. 日本の社会及び文化について議論する際に参考となる様々な見解やアプローチについて知識を深める、2. 日本の社会及び文化に関する著書・資料を見つけるための基本的な図書検索技術を身につける、3. 日本の社会及び文化に関する人口統計データの基礎を身につける、ことである。講義テーマには、“日本人に対する固定観念”、“日本人の家族変化”、“日本人の仕事観”や“海外における日本人”等様々な観点からアプローチしていく。なお、講義は全て英語で実施する。	
	学際系総合研究A	独立行政法人中小企業基盤整備機構が運営する中小企業のための研修機関「中小企業大学校東京校」との連携講座として「中小企業のチャレンジを支える～新しい中小企業支援政策～」をテーマに実施する。事業所数、従業員数ともに日本の企業の大勢を占め、日本経済において重要な役割を担っている中小企業に対する我が国の施策のうち、現在特に重点的に実施されているものを取り上げ、施策の概要について学ぶとともに、中小企業の経営者、中小企業支援担当者等をゲスト講師として招き、受講者同士のグループディスカッションを通じて、中小企業の現状について理解を深めることを目的とする。	
	学際系総合研究B	講座タイトルを地域コミュニティ・ファシリテーション研究と題し、国民国家の成立と資本主義経済の進行によって、長年にわたって人々の生活・自治単位であった「地域コミュニティ」について、その変遷と今後の展望を、日本とアジア各国の具体的な「地域づくり」「コミュニティ開発」の事例から考え、具体的に現場に関わる際のファシリテーション手法やNPO運営等、実践的な方法論も学ばせる。授業計画は、「コミュニティの原型とその衰退」、「新たなコミュニティ再生～①実例編～」、「新たなコミュニティ再生～②実践編～」の3部構成とし、ワークショップ型の授業を行う。	
	学際系総合研究C	社会技術革新学特論と題し、技術革新と社会変革の課題を国際石油情勢の視点から検証する。技術革新の付加価値や資源・エネルギーとの関わり、技術革新と社会変革の実相、石油危機の実相と危機克服における技術革新の役割、その後の日本社会の変遷と国際石油情勢の変化、近年の石油価格高騰とその背景・影響、持続可能な発展と石油情勢の将来展望等を検証しながら今後日本に必要な技術革新と克服すべき諸々の課題について国際的な動向と国際競争力の現状を踏まえつつ論じ、文理融合的視野の涵養、課題設定と実現能力の強化を目指す。授業は各回のテーマに関する専門家をゲスト講師に招きオムニバス講義形式により実施する。	
	学際系総合研究D	会計検査院との連携講座として、「会計検査制度論」をテーマに我が国の公会計監査の中心である会計検査院の検査の実態の解説を行う。そして世界的にもユニークな検査院検査が、我が国の地方公共団体、独立行政法人、財団法人などの他のパブリック・セクションの監査に、更には企業会計監査に、はたまた諸外国のSAI（検査院）の監査にどのような影響を与え、応用できるか、また会計検査院の検査の特徴である「実態監査の本質」について、会計士監査との違いや、諸外国のSAIの監査との比較の中で説いてき、講座後半では事例研究を通じて学生に会計検査制度を学ばせる。	